

越山若水

2021.4.1

唐突な質問だが、何とぞご容赦

を。あなたは「ドーナツの穴」を

食べたことがありますか？もち

ろん筆者は未経験、返事のしよ

がない。ところが実際に食べた人

がいるらしい▼アメリカ的な作風が特徴の作

家、片岡義男さんである。これまでに2度口

にしたという。最初は子どものころ。友達の

お母さんがドーナツを作ってくれた。皿に載

ったドーナツの横に小さな丸い玉があった。

お母さんは笑って言った。「くりぬいた穴も

揚げたのよ」▼2回目は大人になってから米

国で。ある店のメニューにズバリ「ドーナツ

の穴」があった。値段は通常の半分以下。聞

けば、ドーナツの穴の抜きかすを利用したも

ので、穴はなくてもたくさん食べたい人向け

に考案したとか(「パンソロジー」池田浩明

編、平凡社)▼何だか狐につままれたよう

である。それでもちよっと見方を変えれば、

ドーナツの穴も食べられる。日々の生活で次

から次に現れる問題だって、工夫次第で解決

できる可能性は十分ある。片岡さんのエピソ

ードは、常識にとられない発想の大切さを

教えてくれる▼きょうから新年度。入社式に

臨む社会人1年生たちはやる気満々だろう。

ただ新型コロナウイルス禍で景気の風向きは順風とは

いえない。こんな時こそ若い人の柔軟な思考

が役に立つ。「ドーナツの穴」のようなイノ

ベーション(革新、新機軸)に期待したい。